

# 社会科学習におけるテレビ利用の一例

足利市立葉鹿小学校教諭 金子 隆

## はじめに

テレビが教室にはいつから、5年「テレビの旅」の放送を社会科学習にどう生かして使うかと考えていながらも指導計画の展開と、それに応ずる番組の放送とが時期的に一致したとしても、番組の内容が指導計画の展開に必要とするものに合致しないことが多い。地図や模型を利用するように簡単にとり入れることはむずかしいことである。

スイッチ1つひねれば、なんとか社会科の時間が埋められるので、テレビにたよって、すませてしまいうようなあまり感心できない授業もありました。

週4時間の社会科の授業のうち、一時間は、テレビ、あとの三時間は教科書と分けて授業をやってみました。これは教師にとって都合がよいかも知れません。

週4時間の学習に脈絡もなく、思考が時間ごとに途切れてしまうという心配もあります。しかし、うまく使えば、教科書や地図帳一本やりの授業よりもはるかに、児童に興味をおこさせ、深く考えさせていくことができるはずで

そこで、どんな場合に、どんな指導が、どんな効果をもつか、というかたちで研究をすすめてみました。

以下、「テレビ利用」の学習について、つたない実践報告をし、御批判をください。

## テレビを利用する基本的な態度

1. 学習領域の目標を達成するために、テレビを活用するという立場になつ。

(番組が指導計画の内容と時期的に一致するように単元を調整する。)

2. 番組を視聴したあとの指導の研究

(指導は視聴に引き続いてその授業時間内に行なり場合と、その時間内の指導は最少限度にとどめ、別の機会に適切に関連させて行なり場合)

以上、2つの問題からとりかかってみました。視聴指導の実を上げるためには、どんな点を考慮しなければならぬか、その結果どんな指導をすべきだろうか、あげてみると。

① 放送というものの一般的な特性を十分理解しておくこと。そして、利用しようとしている番組シリーズがどんな立場で制作されているかよく理解しなければならない。

② 教科の特質、目的をしっかりとつかんでいる必要がある。

その上につたって番組を利用しようとする、その単元のねらいをはっきり理解しておかなければならない。

③ 児童の興味や生活経験や能力への理解が視聴指導のあり方をきめる。

どの領域にテレビの効果があるのかという領域別の検討ですが、ここに、細かい数字を上げることができませんが、一年間視聴してきていえることは、日常あまり体験できない内容により顕著にあらわれると考えられます。学習領域の中の特に「日本の工業」と「商業・貿易・交通」の領域に効

果があらわれました。

次の表は、N・H・Kで調査したのですが同じような結果になっています。

学習の領域と放送の効果（「放送教育の研究と理論」N・H・K編、109ページ）

表6 社会科領域別の得点

	テレビ視聴群・対照群		
日本の自然（20点満点）	7.5	7.6	有意差なし
農林・水産（30点満点）	13.5	11.9	有意差なし
日本の工業（    "    ）	13.8	>11.5	有意差あり
商業・貿易・交通（20点満点）	7.2	>5.6	

また、児童が一年間放送ノートを記入してきた一部を紹介します。

1月22日テレビ視聴「テレビの旅」青果市場（N・H・K）

2月19日テレビ視聴「テレビの旅」トラック輸送

①名前	5年1組（真下由紀子）
②放送日	国・社・理・道・音 1月22日（月）曜
③題目	青果市場
④べ前 たも こっ とて 調	市場のしくみ 農産物 } →市場→せり売り→仲買人に売る→市場の中にある店にならべる 水産物 } ↓ 小売商に売る
⑤た放 こ送 とさ れ	ねだんの決め方—市場でせり売り 三浦だいがんが農業協同組合から出荷される。 やさいは東京の近くから市場にくるがくだものは遠いところからくる。 市場でせり売りがおこなわれ仲買人が買い、やおやに売る。
⑥たと感 こ・じ と・思 と・た っ・こ	市場でやさいをとりあつかう人はしんげんにやらなくてはいけないと思った。

①名 前	5年1組 (田 部 田 邦 男)
②放送日	国・社・理・道・音 2月19日(月)曜
③題 目	トラック輸送便
④と調べもたつて	
⑤放送されたこと	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. トラックターミナルは全国をあみの目のようにはっている。</li> <li>2. トラックは定期便が多くなった。</li> <li>3. トラックは長距離を走るようになった。</li> <li>4. 夜も休まず運転する。(こんざつしない。ベッドもある。)</li> <li>5. と中に食堂があったりする。(きまった場所)</li> <li>6. ワンマン輸送 15tのトラックもある。</li> <li>7. 専用車ができる。急行便ができる。</li> </ol>
⑥思感したこと	<p>トラック輸送の問題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. トラック5台以下の小さな会社が多い。</li> <li>2. 名神高速道路の通行料が高いのでこまる。国道1号線をまわると交通がこんざつする。</li> </ol>

「青果市場」の放送カード⑥の感想に書いているように、市場で、夜あけとともに働く人たち、せり売りをする仲買人のしんけんな顔、ここで、やさしい値だんが決まるときのようすをみて、このような感想になったわけです。

また、「トラック輸送便」の問題点を指摘していますが、これは、児童が事実の認識をテレビによって、間接的ではあるが、生きた姿でとらえられたのではないかと思うのです。

そこで、番組を視聴したあとでの指導という問題ですが、実践例をあげて紹介したいと思います。

### 指導の実践例

单元名 産業をささえる交通・運輸

ねらい 産業との結びつきを中心に交通、運輸の役割とその現状について理解させ、問題点について考えさせる。

1. 交通運輸機関のはたらきは、各種の産業の発達と密接な関係をもっている。
2. 鉄道輸送は、国民生活はもちろん、産業の面で重要な役割を果たしており、その改善については非常な努力がはらわれている。
3. 自動車輸送が産業の発達に果たす役割はますます増大し、道路整備は今日の急務となっている。

4. 海に囲まれたわが国の位置は、海と空の交通、運輸機関に依存することが多く、産業の面からも海運、航空輸送の発達に大きな期待がかけられている。

指導計画

小 単 元	時間	主 題	時間	テレビの利用
産業の発達と交通、 運輸	2	農業と交通 工業、商業、貿易と交通	1 1	
鉄道と交通運輸	4	鉄道輸送のやくわり 鉄道路線 鉄道の改善	2 1 1	「鉄道輸送と貨物駅」N・H・K 放送内容 s 43, 2, 12, 放送 ① 貨物輸送と鉄道（工業地帯との結びつき） ② 貨物駅のようす ③ 新しい貨物輸送の方法（トラックや船との競合）
自動車輸送と交通 運輸	3	産業と自動車輸送 道路のようす 道路の改善	1 1 1	「トラック輸送便」N・H・K 放送内容 s 43, 2, 19, 放送 ① トラック輸送の現状 ② 道路交通網の整備 ③ トラック輸送の将来
交通・運輸の改善 海と空の交通運輸	1 2	青函航路 産業と海上輸送 産業と航空輸送	1 1 1	「青函航路」N・H・K （ビデオコーダー使用） 放送内容 s 43, 2, 19, 放送 ① 国鉄・青函連絡船の現状 ② 国鉄以外の輸送機関の発達と問題点 ③ 青函トンネルの工事

指導上の留意点

わが国の交通運輸の発達は、かなりめざましいものがあるが、それと同時に、そこには、多くの問題があり、その改善には、非常な努力と工夫が必要になっている現状をしっかりと見つめさせる。

授業例

主 題 青函航路

ねらい 産業の発達のため新しい時代の要請にこたえるため改善への努力のようすについて理解する。

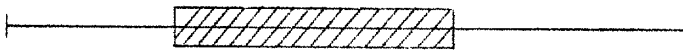
テレビ利用の理由

「鉄道の改善」「道路の改善」などの学習で現在の輸送事情の中でどんな問題点があり、どんな努力と工夫をしているか学習をしているが、本州と北海道を結ぶ大動脈「青函航路」

の物資輸送の面からとらえ、輸送の実態荒天時の欠航などが生活とどう関係するのか、また、青函トンネルの計画が進められているわけを考えさせ、その改善について非常な努力とくふうが、なされている現状を見つめさせるため利用する。

放送の内容

- ① 国鉄・青函連絡船の現状  
青森（本州）と函館（北海道）間の輸送力（量とスピード）と限界、貨物の内容
- ② 国鉄以外の輸送機関の発達と問題点  
貨物トラックなどを輸送するフェリー・ボート  
荒天による欠航
- ③ 青函トンネルの調査坑工事  
10分                      テレビ20分                      15分



展開例

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入	1. 現在の輸送事情の問題点について話し合う。 ・貨物、旅客の運送量の増加、列車事故とその原因	国鉄はどのような改善への努力をしているかという話し合いに発展させる。 既習事項であるから復習する程度におさえる。
展 開	2. テレビ視聴の視点を確認する。 ・連絡船の物資輸送の実態と不便さ ・青函トンネルの必要性と工事の困難性 3. テレビ「青函航路」を視聴し内容をみとる。 4. 視点とテレビの内容について、確認や新しい問題を話し合う。	掛地図（東北地方または北海道地方）を掲示する。 放送ノートに記入させる。 連絡船が欠航した場合と海底トンネル工事の困難性を考えさせる。
終 末	5. テレビで見た以外にも改善のための努力をしていることを話し合う。 ・わが国の4つの島がどのように結ばれているかどんな計画をもっているか。	本州と四国を結ぶ「夢のかけ橋」の話聞かせる。（資料、朝日新聞記事3月3日）

テレビを視聴する前に、視点をあたえることが大切であるが、本時の場合は、視点とテレビの内容が一致しよくみとれた。

連絡船がしけで欠航し何日も続くと物価が上がること、一日欠航すると四日分の貨物が青森にたまってしまいことなどを映像をとおしてみとったことは、連絡船の不便さが生に感じられました。そして、「海底トンネルができれば、天気が悪くても速く、そして、たくさんの貨物がどんどん輸送できる。」と感想をいった児童がたくさんいました。

海底トンネル工事は「一時間に2m、それもスイス製の優秀な機械を使って進むのだからよいなことではない。しかし、海底トンネルは必要だ。」と書いています。

こうした交通、運輸に対するイメージは、教科書の中からはなかなか生まれてきません。  
また、問題を、具体的に考えさせていくことができます。

## ま と め

生きた姿を伝える「放送」は、続けて視聴していこうとするとき、時間のとりかたなどの関係から、直接現在取り組んでいる単元とは結びつかない場合もおこるが、すでに学習された事からの理解をより深め、今後、学習するものへの伏線や予想ともなりうるものだけにとり入れ方を工夫し、活用していきたいものです。

視聴指導においては、番組内容をなぞるような指導よりも、番組のねらいに指導をしぼり、さらに応用的に番組の先へと問題を発展させるような視聴指導のほうが、実際には番組からの学習を増大させ、効果をあげるのではないかと思います。今後の研究を要するものです。

学習をすすめていくのに知能や学力において学級仲間より劣る子どもを、いかにして、らくごさせず救いあげていくかということですが、放送を利用してみると意外なほどの効果があります。

テレビを視聴することによって学習への興味や意欲をひきおこされ、容易に仲間と同等のレベルに立つことができるということです。そして、ときには、視聴後の話し合いで、学習のねらいをつくすばらしい発言をし、教師の胸をおどらせることです。

## 感 想

この実践記録には今教育界で話題になっている視聴覚教材—特にテレビ放送の活用についていくつかの参考になる点を報告しておるように思います。第1に学習領域(単元の意にとって差し支えないと思うが)の目標達成のためにテレビ放送を使用するという基本的態度。第2にテレビ放送も、特に効果の大きい領域とそうでない領域のあることの示唆。第3に日常の一般的指導方法では学習のおくれがちを児童に対してはかなり効果が大きかったことなど。これらは、今後視聴覚教材を使われる諸先生方は一応考慮されてよい点かと思われます。筆者はすでにテレビ放送を数多く活用なされている先生で、視聴後の指導のあり方などにもその豊富な経験と実力の一端を伺い知ることができますが、全体として視聴覚教材の特性—特に現実性・迅速性・情緒性などをたくみに生かした、しかもよくまとまった実践記録と言えましよう。